

# 公式記録

## 平成20年度兵庫県高等学校サッカー新人大会

## 準決勝 【37】

主審  
署名

山道 健一郎

日時 2009年2月11日(水) 11:00 キックオフ 会場 ア斯巴五色サブグラウンド

天候 晴れ 風 弱風 ピッチ (芝)・クレー 状態 (良好)・不良・泥沼 試合形式 70分/延長分 PK戦有

マツリミツコチ 会場主任 堀口 泰司 記録 田坂 昌彦 / 茨木 伸之 観衆 100人

主審 山道 健一郎 副審1 清水 謙 副審2 青柳 息吹 第4の審判員 横田 滋

チーム名	kick off				0	前半	0	チーム名	kick off			
滝川第二高校	先				1	後半	0	市尼崎高校	先			
	背番号					延前			背番号			
	○×					延後			○×			
						PK戦						

交代 No.	OUT時間	シュート				得点	選手名 (学年)		番号	位置		番号	選手名 (学年)		得点	シュート				交代 OUT時間 No.
		延後	延前	後半	前半		前半	後半		延前	延後									
							槇島 貴昭	2年	1	GK	GK	25	堀川 雅矢	1年						
					1		中村 勇紀	2年	5	DF	DF	⑤	川上 裕己	2年						
							岡田 卓也	2年	2	DF	DF	14	保田 拳介	2年						
							久良知英範	2年	4	DF	DF	3	中西 良太	1年						
							濱田 量也	1年	14	DF	DF	6	吉田 昂史	2年						
	57分			1	1		大村 亮平	2年	10	MF	MF	11	坂本 圭悟	2年						
							矢野 亮	2年	6	MF	MF	13	垣田 大樹	2年						46分
							中西 規真	2年	⑦	MF	MF	7	森本 竜太	2年			1			
	HT分						竹本 大輔	2年	9	MF	MF	8	巴山 陽平	2年						
	HT分					3	山本 洋人	2年	20	FW	FW	18	西村 祐哉	1年						
	69分			1	2	1	時本 寛史	2年	8	FW	FW	10	佐々木健太	1年		2				
							中尾 優輝也	1年	12	GK	GK	1	佐々木 望	2年						
	20分					3	渡邊 裕記	2年	19	FW	DF	2	川本 拓広	2年						
	9分					2	柳川 陸太	2年	11	FW	DF	4	金澤 周平	1年						
	8分						土師 直大	1年	22	DF	MF	9	岸本 大樹	1年			1			13分
							本城 信晴	1年	15	MF	MF	15	井口 翔吾	2年						
							岡村 淳平	2年	3	DF	MF	16	松岡 佑弥	1年						
	10分						白岩 涼	1年	13	FW	MF	17	森脇 一	1年						
							京田 憲尚	2年	18	MF	DF	19	濱本 陽平	1年						
							谷口 智紀	1年	23	MF	MF	20	石井 遥樹	1年						

時間	警・退 No.	氏名	事由	梶 裕保				監督 泰中 三郎				時間	警・退 No.	氏名	事由			
42分	警告	5 中村 勇紀	反ス	合計	延後	延前	後半	前半	チーム合計	前半	後半	延前	延後	合計	57分	警告	14 保田 拳介	反ス
				20			9	11	シュート	2	2			4				
				2			2	0	GK	10	7			17				
				9			2	7	CK	0	2			2				
				4			1	3	直接FK	6	3			9				
				3			1	2	間接FK	0	0			0				
				3			1	2	(オサイド)	0	0			0				
				0			0	0	PK	0	0			0				

得点経過	時間	チーム	No.	得点者	スコア	[得点経過] 略号例: ドリブル~・ゴロのパス→・浮き球○・混戦×・ヘディングH・シュートS	
		67分	滝川第二	8	時本	1-0	右⑧~中央S
	分				-		
	分				-		
	分				-		
	分				-		
	分				-		
	分				-		
	分				-		

戦評者 所属【 飾磨・洲本実業 】 氏名【 菅原・平家 】

両チームとも4-4-2のフォーメーション。静かな立ち上がりから徐々に技術に優る滝二が試合の主導権を握り、⑧時本の前線からのプレス、⑦中西のミドルシュート、⑩のドリブル突破などチャンスをつくる。市尼もDFの体を張った守りからカウンターでチャンスをつかぎ、前線の⑩佐々木がキーパーとの1対1まで持ち込む場面も見られた。後半に入ると2トップを入れかえた滝二は左サイドバック⑤中村のオーバーラップや⑨渡邊のドリブルなど決定機をつくったが、市尼もセンターバック⑤川上、⑭保田を中心に懸命に守る。終了間際、右サイドを駆け上がった⑧時本がドリブルでペナルティエリアまで切り込み、左足でシュート。均衡を破り、これが決勝点となった。滝二は再三の決定機を決めきれなかったこと、市尼は粘り強く守ったが終了間際の突破を許した場面が悔やまれた。